国際消費者シンポジウム in 徳島 2026
10月17日（土）

期限表示から考える食品ロス削減

― 韓国研修で得た気づきから ―

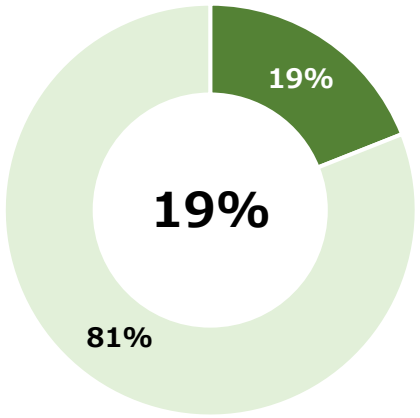
徳島大学　創成科学研究科　生物資源学専攻
七瀬風我

世界の食品ロス・食品廃棄の問題

世界の食品廃棄量

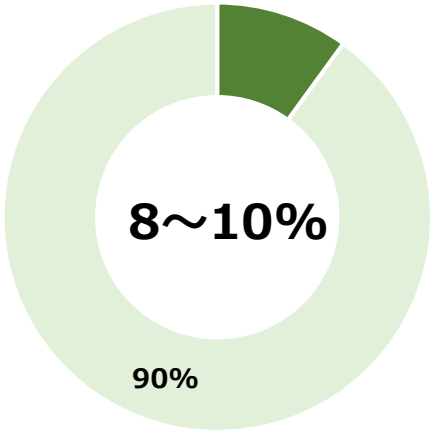
＝約10.5億トンが廃棄

消費可能な食品の廃棄



消費者に供給される食品の約19%

環境負荷（GHG排出）

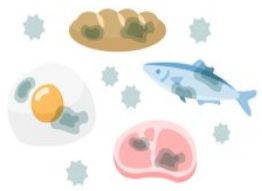


食品ロス・食品廃棄は世界のGHG排出量の約8～10%

出典：UNEP Food Waste Index Report 2024 ; UN SDG 12（2026） ; UNEP International Day of Zero Waste 2026

食品ロス削減に向けた大学での取り組み

食品の品質劣化（腐敗）



徳島大学の分析基盤を活用

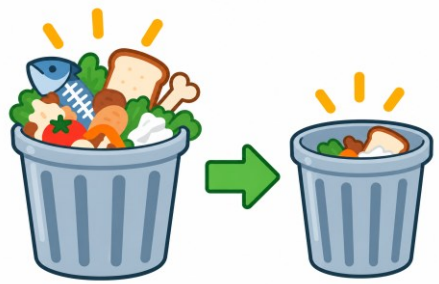
腐敗関連微生物の同定・解析



品質管理・適切な期限設定へ



食品ロス削減



徳島大学

「食品保蔵学の視点」から
食品ロス削減を考える

＋

韓国研修

「消費者の理解と行動」から
食品ロス削減を考える

韓国での視察と学び

済州漢拏大学での交流会にて



- 済州漢拏大学で食品の「期限表示」が話題になった
- 日本と韓国では期限表示の制度が異なることを知った

韓国の期限表示は、日本と何が違うのか？

日本と韓国の期限表示制度

日本

食品の特性に応じて 2つの期限を使い分け

消費期限　＝　安全性を重視

「過ぎたら食べない方がよい期限」

賞味期限　＝　品質を重視

「おいしく食べることができる期限」

韓国

2023年から表示制度を転換

～2022年
流通期限
「いつまで販売できるか」

→

現在
消費期限
「いつまで安全に食べられるか」

※冷蔵の牛乳類は2031年から適用

日本：品質･安全を基準に2区分 ／ 韓国：流通期限から消費期限へ

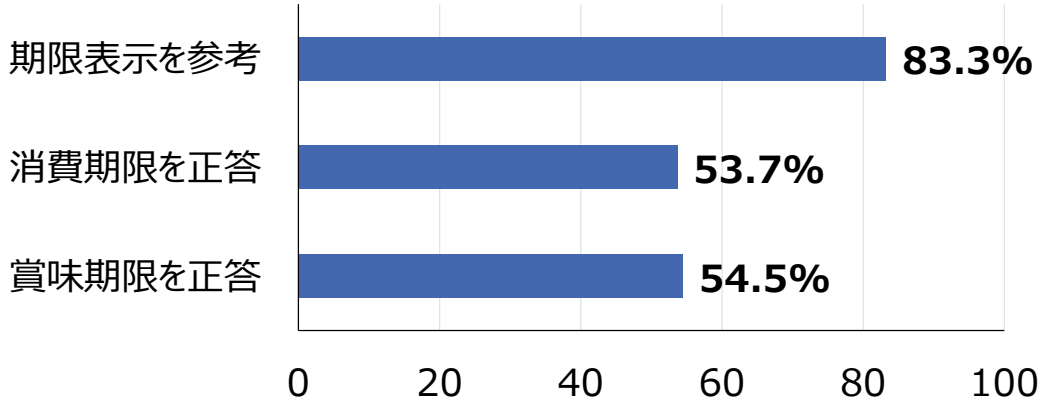
出典：消費者庁「食品の期限表示に関する情報」／韓国食品医薬品安全処「消費期限表示制」Q&A（2023）

期限表示制度と消費者の理解

韓国研修で期限表示制度の違いが話題となり、制度の認知や受け止め方に関心を持った

期限表示・制度は、正しく理解されているのか？

A　日本：消費者庁調査



「見る」83.3%　→　「意味を正答」約54%

期限表示参考：n=6,050／期限の意味：n=3,025

B　韓国：消費期限制度導入後

制度の趣旨に賛成

81.9%

→ 一方で

明確に認知

42.4%

消費期限のみでは混乱しそう

76.4%

制度への賛同は高いが、認知には課題

韓国：全国19～59歳男女、n=1,000

「知る・見る」から「正しく理解する」へ

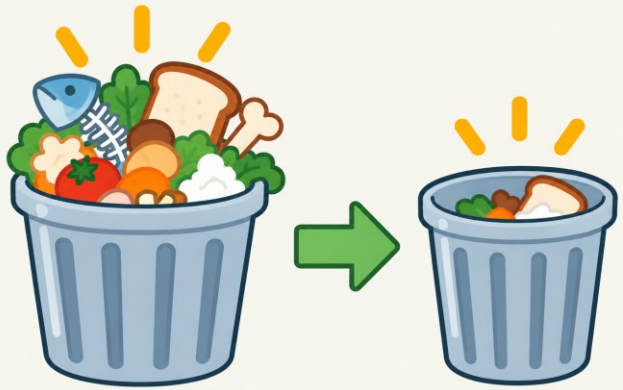
出典：消費者庁（2026）／ TrendMonitor（2023）

SDGs達成に向けて

消費者

- **知る**
  期限表示の意味
- **守る**
  保存方法・温度
- **選ぶ**
  食べる予定に合わせる

SDGターゲット12.3
食品ロス削減



徳島大学

- **研究**
  腐敗微生物の解析
- **発信**
  知見をわかりやすく社会へ
- **連携**
  企業・外部機関

消費者の理解と行動 × 研究・社会連携

最後に

食品ロス削減はSDGs達成に向けた
世界共通の重要な課題である

国が違えば制度も異なる
でも、目指すゴールは同じ

日常の小さな意識が、
世界共通のゴールへの第一歩である

